

水難防止の注意点

過去5年間の兵庫県内における水難発生状況は、年間、概ね40～60件発生し、死者は25名前後で推移しています。

発生した水難の半数近くで死者が出ていますので、次の点に注意し、事故に遭わないように注意しましょう。

[「兵庫県内における水難発生状況」はこちら](#)

行為別特徴

最も多いのが「魚釣り・魚取り中」の事故で、発生件数の約27%、死者数の約31%を占めています。

また、「水泳中」、「通行中」等の事故のほか、水中をのぞいていて転落、岸壁で立ち上がった際にバランスを崩して海に転落する等の事故も発生しており、水辺では一瞬の気の緩みが事故に繋がりますので、十分に注意してください。

年代別特徴

未就学児～高校生

この年代の事故者数は全体の約26%ですが、「水遊び中」、「ボート遊び中」、「陸上における遊技・スポーツ中」の事故については、半数以上をこの年代で占めています。水辺は常に事故と隣り合わせですので、安全を第一に考えて楽しく遊びましょう。悪ふざけや危険な行為は厳禁です。

高校卒業以上の年代

この年代の事故者数は全体の約74%を占め、死者数についても全体の約92%を占めています。

また、「水泳中」の事故者は、高校卒業以上～65歳未満の年代だけで約76%を占めており、その割合が際立っています。

そのほかにも、大人特有の事故として、飲酒後に岸壁を通行中、誤って海に転落した事例も散見されます。飲酒後は、海や川、湖等に近づかないようにしましょう。

水難防止に向けて

救命胴衣を着用しましょう

魚釣り中に誤って海に転落したものの、救命胴衣を着用していたため無事救助された人がいる一方で、未着用のために亡くなられた人がたくさんいます。

万一、水中転落等した場合に備えて、救命胴衣を着用しましょう。

自分の体力や泳力を過信しない

遊泳の際は、最初に浅瀬等の安全な場所で自分の体力や泳力の現状、その日の体調の把握に努め、自分の体力や泳力を過信した無謀な遊泳は止めましょう。

子供から目を離さない

子供の水難は、保護者が目を離した隙に発生しています。水辺では油断せずに、常に子供達に注意を向けましょう。